

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-45	実施計画番号	57	事業開始年度	平成17年度
事務事業名	生徒指導に関する研修会の実施			事業終了年度	
担当課名	指導課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	教育研修の充実・教育相談事業の推進		
背景や経緯等	生徒指導、教育相談、学級経営に関わる研修会を実施する。				
事務事業の目的	児童生徒が抱える多様化する問題に対して、学校及び教員が適切に対応するための指導力の向上を図る。				
実施状況	・夏季休業中に市立小・中学校に勤務する教員を対象として、生徒指導研修会及び学級経営研修会を実施 ・昨今の教育問題に対応できるよう研修内容を毎年検討し実施				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	50	50	50
	人件費(千円)	1,800	1,800	1,800
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	13	15	25

【指標】

活動指標	活動指標名①		学級経営研修会の参加人数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	26	31	30
	活動指標名②		生徒指導研修会の参加人数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	27	30	30
成果指標	成果指標名①		生徒指導に関する校内研修を実施している学校数			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		校	目標値	26	26	25
			実績値	26	26	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">児童生徒の自己指導能力を育成するためには、学校での教育が重要である。各小・中学校への指導・助言、情報の提供は今後さらに必要性が増すものと考えられる。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	児童生徒の自己指導能力を育成するためには、学校での教育が重要である。各小・中学校への指導・助言、情報の提供は今後さらに必要性が増すものと考えられる。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
児童生徒の自己指導能力を育成するためには、学校での教育が重要である。各小・中学校への指導・助言、情報の提供は今後さらに必要性が増すものと考えられる。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">各活動においては当初の計画に従って進めてはいるが、児童生徒の実態や社会情勢に合わせて、取組を見直していくことが常に求められる。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	各活動においては当初の計画に従って進めてはいるが、児童生徒の実態や社会情勢に合わせて、取組を見直していくことが常に求められる。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	各活動においては当初の計画に従って進めてはいるが、児童生徒の実態や社会情勢に合わせて、取組を見直していくことが常に求められる。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">必要最小限の経費で研修会等を行っており、これ以上のコスト削減の余地はないと考える。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	必要最小限の経費で研修会等を行っており、これ以上のコスト削減の余地はないと考える。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	必要最小限の経費で研修会等を行っており、これ以上のコスト削減の余地はないと考える。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田市に在住するすべての児童生徒及び保護者に対して、安心して学校生活を送ることができるよう取り組んでいる。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	十和田市に在住するすべての児童生徒及び保護者に対して、安心して学校生活を送ることができるよう取り組んでいる。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
十和田市に在住するすべての児童生徒及び保護者に対して、安心して学校生活を送ることができるよう取り組んでいる。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

児童生徒の実態や社会情勢、または社会のニーズに応じた対応が不可欠である。今後も必要に応じて改善工夫を行い、児童生徒のさらなる向上を目指す取組を強化していきたい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

いじめに関する問題が大きく取り上げられている。児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができるよう、より一層、学校教育の向上を目指す。